

みみさき

19号

美咲町議会だより

2010年2月10日発行



無病息災を願って「鬼は外 福は内」(藤原保育園 節分交流会)

主な内容

- 3~5 9千万円の補正予算ほか 12月定例会の報告
- 6~18 地域再生に向けて 13人が一般質問
- 20 サークル紹介
文字で心も一緒に伝わる 要約筆記サークル「ぷらす」

地域再生に向けた施策への 取り組みを

年頭所感

議長あいさつ



三船勝之 議長

年頭にあたり、議会を代表して
ごあいさつを申し上げます。

昨年は、日本経済を支える自動車・電気産業関連企業が総じて労働者のリストラを行い、景況に不透明感が増す中、歴史的な政権交代がありました。「地域主権」を掲げる新政権に国民が期待するのは経済対策・雇用対策であり、早急な取り組みを望むものであります。2010年を迎えた県内の景気は依然厳しく、経済に力強い回復が見られないと言われている中、地域に活力を取り戻すには、多くの課題に取り組みなければなりません。

私は、第一に中山間地域の人口減少に歯止めをかける対策が必要であろうと思います。そのためには高齢者の健康対策、空き家対策、Uターン・イターン支援対策などによる人口維持を行い、少子化対策にしっかりと取り組み、地域の伝統文化を守りつつ、農商工が連携した^くにぎわいのある地域の拠点づくりを進めることであろうと思います。

本町では、協働のまちづくりを推進しておりますが、この組織をしつかり立ち上げ、地域活力再生の基礎となることを願うものであります。私たち議会は、このような課題を念頭に置きながら行政推進に邁進してまいります。町民



ええもんがでええ安かったなあ (どんとこい収穫祭 倭文西地区)

皆様のお知恵を拝借し、町民総参加でまちづくりを進めるため、一層のお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。本年が町民皆様にとりまして最良の年となりますようご祈念申し上げます。

12月定例会の報告

(12月9日から22日まで)

定例会が招集され、条例4件、九千二百五十六万円を追加する一般会計など補正予算14件、その他6件が上程された。

条例の改正

条例の改正が上程され、審議の結果、全会一致で承認した。主なものは次のとおり。

身体障害者の入館料を半額に変更

ふれあい鉱山公園 条例を改正

柵原鉱山資料館への身体障害者および付添人の入館料を現行二割引きから五割引きに変更する。

新たに

火葬済書を発行

町営火葬場の

設置、管理条例を改正
昭和53年に設置した

黒岩給水区域を簡易水道に編入

簡易水道事業 給水条例を改正

黒岩団地飲雑用水施設の給水区域を旭井和簡易水道事業給水区域に編入する。

ごみ搬送中継基地は建設しない

津山圏域資源循環施設組合規約を変更

新設される津山クリーンセンターへごみを搬送する際に中継基地は建設しない。代替案として運搬距離が20キロメートルを越える市

町への寄付金制度の拡充を図るため、個人住民税寄付金控除対象を従来の十万円以上から五千万円以上に改める。

美咲町税条例を改正

町への寄付金制度の拡充を図るため、個人住民税寄付金控除対象を従来の十万円以上から五千万円以上に改める。

陳情・請願

敬称は省略させていただきます。
いたadakimasu。

請願1件、要望2件、継続審査3件は、常任委員会に付託し審査した。結果は次のとおり。

教育予算の拡充を

岡山県教職員組合
久米・苫田支部
支部長 青山茂樹
子どもたちに豊かな教育を保障することは重要とし採択とした。

公共工事の適正発注を

美咲町建設業協会
会長 浅津真悟
町道田尻門口線ほか2路線の改良工事を
角石祖母地区
区長 岩崎徹正

ますだに
煤谷川堰ほか
13カ所の改良工事を
吉ヶ原地区
区長 妹尾知興

議員発議

陳情の窓口一本化に反対する意見書

国に対する陳情窓口を民主党に一本化することは住民の代弁者である議会人として認められない。地方の声をしっかり受け止める仕組みを確立すること。

電源立地地域対策交付金制度の

交付期間延長を求める意見書

環境負荷が少ない水力発電は今後も安定的に維持する必要がある。22年度で交付期限となる水力交付金を恒久的な制度とすること。

これらの要望を強く求める意見書を日本政府に対して送付した。

商工業振興事業補助金の予算措置を

久米郡商工会
会長 西本和馬
地元商工業者育成の観点から採択とした。

常任委員会から

総務 町内11カ所に 防災カメラを設置

21年度一般会計、特別会計、条例案件5件など付託された11件を審査し、全会一致で承認した。

◎一般会計補正予算

歳入歳出に九千二百五十六万円を追加し、総額百十四億六千八百三万円とするもの。

【歳入】国庫支出金三千七百四十二万円減額、繰入金五億八千九百二十八万円減額、地方交付税六億三千八百六万円、県支出金二百六十六万円、寄付金二百八十四万円、町債（貸入金）三千三百万円を増額。

【歳出】企画費五千二百万円はユビキタスタウン推進事業の減額。

答 県からの補助金が無くなったため指定管理で委託する。2年間で三十四万四千円。

問 旧柵原町の庁舎建設基金の残額は、

答 20年度末で千二百十五万八千円。

問 みさきネットの利用料金が高すぎるとの指摘がある。他市町との比較はできないか。

答 比較表を作成する。22年2月から高齢者を対象にみさきネットの説明会を開催する予定にしている。

問 防災カメラ設置計画と設置場所の決定は。

答 10年の災害箇所を参考に設置場所11カ所を決定し、22年1月に入札を実施して着工する。

問 税申告会場が少

答 ない。交通手段の確保が必要ではないか。

問 地区を決めて送迎バスで対応する。滞納分の徴収は

答 できているか。管理職の巡回により効果が上がっている。



防災カメラの設置予定地（飯岡地内）

■現地を確認

防災カメラ設置予定11カ所の現況調査、農村下水道に接続される吉岡地区コミュニティハウス1の状況、改修工事が予定されている西幸第一集会所の現状把握など確認を行った。

民生教育

小学校のパソコン 購入に4500万円

付託された議案6件を審査し、全会一致で承認した。

◎一般会計補正予算

国の子育て応援特別手当の廃止による千五百七十九万円の減額。町内全小学校へパソコン二百十台分の購入費など四千五百四十二万円、中学校のデジタルテレビ購入費など六十万円、小学校の理科教材購入費三百三万円などを増額。

答 育児をサポートするもので、講演会時の子守り、母子クラブの活動支援などを現在二十人で行っている。

問 学校ICT事業による小学校へのパソコン購入二百十台の内訳は。

答 左表のとおり。

■主な質疑応答

問 育児サポーター養成事業の内容は。

パソコン購入の内訳

加美小学校	45台
美咲中央小学校	45台
旭小学校	40台
柵原西小学校	50台
柵原東小学校	30台
合計	210台

問 パソコンは購入するより、リース契約の方が経費削減になるのでは。

答 リース契約にすると国の補助金がもらえない。なお、中学校は19年度で導入済。

問 パソコンは町内で購入できないか。

答 価格とメンテナンスがクリアできれば検討したい。

問 大戸く塚角間にソーラーシステムのLED（発光ダイオード）防犯灯の設置を予定しているが、消費

電力の削減、耐用年数も長いことから学校施設にもLED防犯灯を導入していくべきではないか。

答 今後検討したい。

問 スポーツ振興事業奨励金などの交付規則は。

答 スポーツ競技で中国大会以上に出席の場合、小・中学生は一人一万円、高校生以上は一人二万円を交付する。全国大会出場の場合は横断幕も掲げている。



今や小学校でもパソコン授業は必須（美咲中央小学校）

産業建設

果樹棚の設置補助に

242万円

付託された一般会計、特別会計補正予算など6件を審査した結果、全会一致で承認した。また、要望4件などを審査した。

◎一般会計補正予算

エコカー・太陽光発電補助金に二百万円。旭地域への合併処理浄化槽普及により、し尿処理費を二百三十九万円減額。ピオーネ生産者へ果樹棚の設置補助金二百四十二万円。道路管理費二百七十七万円。かめつち食堂整備費百四十六万円。

◎特別会計補正予算

旭統合簡易水道事業三百十五万円の増額は黒岩地区の加入金。中央簡易水道事業三百九十万円は修繕費。柵原公共下水道事業四十万

円は電算処理費。中央公共下水道事業千万円は津山市への処理費分担金を追加。

■主な質疑応答

問 水道料金は現状で維持できるのか。

答 今後は5%〜25%の範囲で料金改定が必要になると思われる。

問 柵原地域で企業と締結している公害防止協定の状況は。

答 少量のPCBを含む変圧器を焼却処理するもので、地元自治会と協議中である。

問 大阪で開催された「おいでんせい岡山の旅」の成果は。

答 「たまごかけごはん」を販売して大盛会であった。

問 空き家対策としての道路の維持管理状況は。

答 住民が生活している所から対応している。空き家などは入居された後、対応する。

問 町内に実体のない会社などの入札資格審査は。

答 旭北地区に設置が予定されている米粉製粉所の施設と奈義町の製粉・販売施設を視察。また、町道三休線道路改良工事の特殊工法の視察を行った。



米粉パンの製造・販売所を視察する委員会メンバー（奈義町 山の駅）

問

一般質問

質問
合併協定書の内容は
守られているか

合併理念に基づいた
方向を維持する
答弁



草薙良明 議員

問 美咲町が誕生して5年が経過する。合併協定での約束は守られているか。

答 定本町長 合併協議の段階では数多くある項目のほとんどが合併後に考えるという内容であった。

そんな中でも合併協定書には①地域住民への行政サービスの確保②事務事業の効果的な推進③住民サービスの低下を招かない機能の充実という合併理念が

記されている。今後この方向を維持する行政運営を行っていく。

総合支所へ 保健センターの充実を

22年4月設置予定で準備中

答弁

質問

問 高齢化が進む地域では、身近で気軽に安心して保健・医



あいたたっ！体を伸して寿命ものばそう（健康指導教室）

療・介護の相談ができる窓口が望まれている。元気な高齢者が増えれば地域が活性化され技術・文化を次世代につなげていける。このことを念頭に置いて各支所への保健センター充実を急げ。

答 定本町長 各支所への保健センター設置は22年4月1日を目標に健康増進課で作業を進めている。地域の文化と伝統を守り次世代につなげていける安心・安全なまちづくりは行政の努

めである。「協働のまちづくり」による地域の活性化も各地域で少しずつ取り組みが広がっている。また、文化協会と連携した生涯学習への取り組みも充実させていきたい。

問 町内各地域の現状を把握しそれぞれの状況に合った活性化政策の実現を望むが。

答 定本町長 町長就任以来、各地域の行事に積極的に参加できた。住民との会話を通じてそれぞれの地域の実情をしっかり把握して今後の活動指針としていきたい。

町政を

質問

国の事業見直しによる

影響は

影響はある

今後に期待する

答弁

答 定本町長
政権交代により、国の第一次補正予

算が二兆七千億円執行停止となった。町においてもユビキタスタウン事業費一億円が四千万円に減額、子育て応援特別手当千五百七十九万円が全額廃止されるなど大きな影響があった。国の第二次補正予算に期待するしかない。



下山和由 議員

問

政権交代で予算の執行が危ぶまれている。政府の行政刷新会議が行った事業仕分けの判定結果を受け、本町の予算執行に支障はないか。特に、農道整備事業の廃止、まちづくり交付金・下水道事業の地方移管、耕作放棄地再生利用緊急対策事業の予算見送りなどは農産業の振興を妨げる結果になる。行政として今後どう対応していくのか。

質問

耕作放棄地の対策を急げ

答弁

協議会を組織して対応

問 町内の耕作放棄地は七七二ヘクタール。そのうち利用可能な放棄地は一九一ヘクタールと示されている。県は、耕作放棄地の再生利用緊急対策交付金の利用を促しており、県下では二十一日町村が協議会を設置しているが、本町はどうか。

答

山下産業観光課長
耕作放棄地の対策は、21年8月に地域担い手総合支援協議会を設置した。22年3月発行の町広報紙に具体的な内容を掲載してお知らせしていく。

質問

町内の空き家対策を急げ

答弁

柵原をモデル地区にし調査

問 総務省の調査では、全国の住宅総数に対する空き家の割合は13・1%、岡山県では14・8%と過去最

高となった。近隣市町村では空き家バンクなどを設置して対応している。美咲町は今後どう対応していくのか。

答 定本町長
地域の空き家調査を各区分長に依頼している。この基礎調査を踏まえ柵原地域をモデル地区にし調査していく。また、商工会との連携も深める。空き家対策推進室を設置することも今後の課題である。



ようこそ美咲町へ おかげで地域が元気になります(塚角地内)

質問
**地元業者の育成を
 考慮せよ**

**大型工事には
 共同企業体を採用**



角南憲一 議員

答 形井副町長
 建設業者には、経営事項審査の等級区分に応じて等級が位置付けられている。今後予想される大型工事は、地元業者が参加できる共同企業体方式が最適と考えている。

答弁
 業者には反映していきたいと考えている。

問 大型工事への地元業者が参加できる共同企業体方式の導入は。

問 完成工事の検査官は選任されているのか。

答 形井副町長
 合併時に地区の相違を統一することを目的に三人の検査官で対応していたが、22年度からは一人で検査するよう改革を行う。

問 完成検査の結果、建設業者の評価が十分に反映されているか。

答 形井副町長
 現時点ではできていない。今後は優良



地元企業の育成に知恵を出せ

答弁

質問
**災害情報の入手と
 伝達方法は
 システムの適切な
 運用を図る**

答 形井副町長
 県防災情報メール配信サービスを職員および消防団員が活用している。本町は地形的に東西に長いため、近隣市町村の予報も考慮しながら防災体制を整えていく。

答 定本町長
 防災システムなどの整備に関連した防災カメラを十一台町内に設置する。

問 樋門管理契約書に防災関係情報を追加する必要があるのでは。

答 定本町長
 樋門の現場を視察し、その重要性を改めて認識した。緊急時の情報提供の条項を追加して管理者と協議を行い、22年4月に地元と契約を締結したい。

問 県総合防災システムへの対応は。

答 形井副町長
 県の指導で実施している各種の訓練に関係職員を参加させてシステムの適切な運用に向けて努力している。また、22年度からの注意報、警報が市町村ごとに発令されるので、範囲を特定した対応が取れることを期待している。

問 関係する町民への伝達方法はどうか。

質問

22年度予算の

編成方針は

継続可能な財政構造

を確立する

答弁



松島 啓 議員

問

不況による税収の大幅な減額、国の事業仕分けなどによる町財政への影響が心配される。本町の予算編成は大変厳しいものと思われる。この状況での22年度の予算編成方針は。

答

定本町長

徹底した歳出削減を図り、「世界にはばたく『元気』な美咲町」を目指していく。財源の許す限り必要性和緊急性の高い施策は積極的に予算化する。

問

財政健全化と住民サービスのバランスをどのように予算へ反映していくのか。

答

定本町長

景気の低迷で回復の兆しは無く、本町の自主財源の増加は見込めない。依然として巨額の収支不足を抱えている。今後国・県・景気の動向に注視し、あらゆる方策を駆使して継続可能な財政構造を確立していく。

質問

移住者への支援で地域活性化を

空き家情報などを有効活用

答弁

問

少子・高齢化、人口減少、地域活性化の対策にUターン・イターナー者への支援が必要ではないか。土地購入費・住宅改修費などへの助成、固定資産税・水道使用料などの減免措置、移住支援金の支給などが考えられるか。

答

定本町長

地元の人と平等に支援していきたい。移住する人だけへの支援は難しい。



笑顔いっぱい 石窯パンで頑張っています

問

移住して起業を目指す人への支援制度をつくる考えはないか。

答

定本町長

起業を考えている人への支援は、今後検討していきたい。

問

自治会に協力してもらった空き家情報を今後どのように活用していくのか。

答

定本町長

空き家情報は、持ち主の了解を得ればインターネットでの発信、町の広報紙での公開などを考えている。

質問
**学校図書室に
 専任司書の配置を**

**兼任を配置して
 指導している**
答弁



金谷高子 議員

問 19年度から5年間で千億円の予算を確保し、学校図書の実をを図る第二次基本計画の中で、図書館蔵書の増加、学校への専任司書教諭配置が進められている。
 政権交代により「子どもゆめ基金」「子どもの読書活動推進事業」が廃止された。活字離れ、読書離れで子どもたちの思考力や想像力の低下が懸念され、町内各図書館の利用も減少している。小・中学校に

専任司書教諭の配置が必要と思うが。

答 泉教育長
 9年度に図書館法の改正があり、15年度以降は十二学級以上の学校には必ず専任司書教諭を配置することになった。本町は特別支援学級も入れて八学級が最高である。しかし、現在、各学校に一人二人の司書資格を持った教諭があり、兼任で読書指導を続けている。



読書は人生の貯金箱

質問
**予防接種の
 補助対象を広げよ**

答弁
**国の動向を見ながら
 検討する**

問 国が示す新型インフルエンザワクチンの接種回数は一回か二回かで二転三転している。現在の状況はどうか。
答 定本町長
 ワクチンの接種

回数基本的には健康な人は一回となっている。医師の指示によって一回か二回に判断される。

問 基礎疾患を有する人、小児、高齢者などが、経済的理由で予防接種をためらうことがないように補助対象を広げるべきではないか。
答 定本町長
 国の新型インフルエンザ予防接種事業の要綱に基づいて、9月補正予算に二千万円の予算を計上した。今後の予算は、国の動向をみながら検討していく。

問 非課税世帯全員に予防接種の通知は出せないか。
答 定本町長
 守秘義務・個人情報保護の観点から通知は出せない。

質問

国際交流事業は

継続すべき

経済状況が

回復するまで休止

答弁



貝阿彌幸善 議員

問

ベトナム・ベンチエー市との国際交流事業は、財政が厳しいため休止しているが、「世界にはばたく元気な美咲町」の実現のため、国際交流事業は進めていくべきではないか。

答

定本町長

経済状況が回復するまで休止するとしているが、従来通り友好関係は維持していく。「世界的な不況が、わが町にも押し寄せ深刻な状況であるため、



国際交流事業は是か非か（ベトナムのビンフー小学校）

問

国際交流事業を十分理解し継続し約束が果たせていません。ご理解ください。」とのメッセージを送付しているが、正式調印、情報交換などはできていない。

国際交流事業を十分理解し継続し

答

定本町長

町を背負って立つ子どもたちの将来を考えると必要であると思う。国際交流の原点に帰り議会も特別委員会を設けて執行部と共に真剣な取り組みを願う。

問

政権交代で事業仕分けが進められたことでコンクリートから人へと事業シフトしたため、今後益々の財源不足が考えられ、より開かれた情報公開と透明性が求められる。町でも事業評価制度を導入する必要があると思うが。

答

定本町長

政策が第一、その次に事業評価だと考えているが、最小限の経費で最大の効果を出すためには、事業評価制度の研究は必要だ

質問

事業評価制度の導入が必要では

制度の研究は必要である

答弁

と感じている。地元からの道路改良などの要望の対応に早い・遅いの不満が地域から出る。こうした時に事業評価制度を導入して透明性の高い評価により整備の順番を決めていけば、多くの人は納得できると思う。この意味からも制度の導入を図るべきである。

答

池本建設課長

建設事業の要望書が出ている順に現地確認を行い、経済性、交通量、住民の要望度などを考慮した事業評価の考え方を持って進めている。

質問

町政の諸施策に
民間活力導入を

見聞を広めノウハウを
考えていく

答弁



松田英二 議員

問

国はPFI法（民間資金等の活用による公共施設整備促進法）を11年に制定している。これは、公共施設の設計・建設・管理・運営を民間の資金・経営能力・技術的能力を活用して事業コストの削減、質の高い公共サービスを提供するもので、全国各地の地方自治体で取り組まれている。財源の確保に苦慮する本町でも民間活力の導入を本気で考える時期にきている

のではないか。

答

定本町長

津山市に建設されるゴミ処理場は、公設民営方式が導入される。民間活力導入は、今後見聞を広めてそのノウハウを考えていきたい。

問

PFI事業の中にリース方式がある。この方式で、柵原総合支所を改築する場合、民間企業が庁舎を建設して行政が入居する。一定期間リース料金を支払えば建物の所有権は行政に移管される。研究する価値は十分にあると思うが。

答

定本町長

研究、勉強を重ねていきたい。



老朽化した公共施設の管理は大きな課題だ（藤原児童会館）

耐震改修促進計画

の策定は

問

阪神・淡路大震災の教訓を受け、耐震改修促進法が7年に制定された。周辺の市町では、計画書と共に地震災害危険度を示すハザードマップを作成して危険施設更新の指針を示し、住宅などの耐震改修を促進

答

池本建設課長

している。計画書作成は完了しているか。耐震改修促進計画は、18年度に作成した。地震ハザードマップは、22年1月に全戸配布を予定している。

問

住宅などの耐震改修工事に補助金はあるか。

答

定本町長

耐震診断調査に二万八千円、改修工事に上限二十五万円の補助金がある。税制面での減免措置も実施している。

問

古い公共施設に対する耐震診断調査の計画は立てているか。

答

池本建設課長

町内全域の公共施設、一般住宅など、すべての建築物を対象とした耐震建築物台帳を作成中で、21年度中に完了する予定。

町政報告会の

開催は

問

中央・旭・柵原地域のそれぞれで町政報告会を望む声は多くある。今後の対応は。

答

定本町長

22年度から実施する方向で考える。

質問

有害鳥獣への対策を

有効な手段を

検討する

答弁



岩野正則 議員

問

猪防護柵の設置状況と効果は。

答

山下産業観光課長 猪防護柵は、21年度で受益戸数百二十戸に対して事業費二百二十万円で延べ一万八千メートル設置している。被害は若干減少している。

問

有害鳥獣駆除に対する猟友会の対応は。

答

山下産業観光課長 有害鳥獣の駆除は、猟友会の駆除班七十五人が猟期以外にも活



被害は深刻 捕獲したイノシシ

発な活動を続けている。

問

狩猟免許の取得・更新にかかる費用への補助金、減少傾向にある鳥獣捕獲員の養成を検討すべきでは。

問

荒廃農地および周辺林地管理の取り組みに作業者の訓練・養成、建設業者の参入などを検討できないか。西栗倉村の民有林一括管理方式や津山市の市有林保全協定な

答

定本町長 難しいが、重要な問題だけに取り組みの方法を考えていく。

荒廃農地への

取り組みを

答

どが参考になるのでは。山下産業観光課長 農地は個人財産なので荒廃地整備は難しいが、有利な補助金を探すなどの取り組みを検討したい。

下水道の接続率を

増やせ

問

下水道の接続率が50%と低い。向上させるための施策は。また、下水道計画を見直す考えは。

答

山本上下水道環境課長 接続率向上のために事業資金の融資や利子の補てん制度を実施している町村もあるが、本町ではアンケート調査を実施して検討する。22年度で県が汚水処理計画を見直す予定だが、本町の下水道計画の大きな変更は考えていない。

問

合併浄化槽区域の水洗化率も50%

答

山本上下水道環境課長 宅内の工事費負担が大きいため設置が伸びない。根気よく推進を進めていく。

指定管理施設の

経費削減を

問

香花温泉と鉦山資料館には多額の費用を要している。利用目的、効果を明確にして指定管理者の公募を行い経費削減を図るべきではないか。

答

形井副町長 香花温泉は千五百万円、鉦山資料館は千三百万円の管理委託料であるが、いずれも町民の交流と健康増進を図る重要な施設である。採算性が低い施設の管理を公募することは難しいが、経営感覚を持って努力する。

質問

どうする財政健全化

選択と集中で

無駄を省く

答弁



岡田 壽 議員

問

22年度は、町長が新体制で指揮する予算である。公約では財政健全化、徹底して無駄を省くとある。また、町の決算報告に経常経費の抑制に留意する必要があると記されているが、その中には。

答

定本町長 無駄を省くとは事業の評価を見直すこと、美咲町なりの選択と集中した事業を実施することである。

答

難波企画財政課長 経常経費とは必ず支払わねばならないお金。公債費（借金）、物件費、人件費、扶助費（生活保護費など）である。抑制する対象は人件費、物件費が対象になる。

問

政権交代で国の方針が定まらない状況では、22年度当初予算は骨格予算とし、その後、必要な予算を計上する考えはないか。

答

定本町長 国の予算が12月中にはできる予定。その後、町の予算を立てる。骨格予算にはしない。

質問

確保できたか生活サポーター

現在59人 まだ足りない

答弁



高齢者などの日常生活を体験する生活サポーター（研修会風景）

問

安心生活創造事業で、一人暮らし

答

村島健康増進課長 生活サポート店は、小売店やほかの事業所を含めて中央地域（百七軒）、柵原地域（六十五軒）、旭地域（四十四軒）、久米南地域（五軒）の二百二十一件。

答

定本町長 国の補助金七百万円の事業。サポート店は商工会、サポートー養成と見回りは社会福祉協議会、事務は健康増進課の協力組織で実施する。3年後は補助金がなくなるので募金などで財源確保を目指す。

対話の行政が

公約では

問

公約では町民の意見を集約する町政懇談会などで「対話の行政」をするとあるが、今後の計画は。

答

定本町長 今までは要請のある場に向いて対話してきた。22年度は町政懇談会も計画する。

質問

行政の責任を

どう考えるか

責任を問われるような

問題はない

答弁



小島洋征 議員

問

町長就任以来、問題が起こってもケジメを付けないままに事が運ばれているように思う。

答

新聞にも報道された、前町長宅への下水道の引き込みは地位を利用しての行為であり、工事費を請求するとのことだったがその後一切の報告がないが、定本町長

問

6月末に事務不手際により入札が中止された。担当職員に始末書を書かせて事が終わっているが、

答

町長・執行部の責任が明確になっていないとの指摘だが、美咲町懲戒処分の指針に基づいて処分している。

問

4月末日の指名願いの締め切り後に指名願いを受理した件では前に戻すとの町長発言があり、議会から「処分を」との声があったにもかかわらずそのままになっているが、

答

定本町長 指名競争入札資格審査に関しては、4月末日締め切りを優先運用していく。

問

これらの問題に關して責任の所在をどう考えているのか、

答

定本町長 過去の事例に照らして相当の処分をと

のことが、過去に町長処分の事例はない。また、私は入札や指名には一切関与していない。いつ入札があるのかも知らない。関与があるかどうかは常識的に判断してもらいたい。

質問 あさひが丘特養の運営は

収支計画は 大丈夫だ

答弁

問

あさひが丘の地域密着型特別養護老人ホームの建設計画で、建設事業費の半額程度の国庫補助があると思うが、残額はどうするのか、

答

定本町長 建設資金補助に

は、計画が煮詰まった段階で議会に提案する。

問

社会福祉協議会で人材は問題なく確保できるのか、

答

定本町長 人員確保は社会福祉協議会で対応すると確認している。

問

運営面では相当厳しいと推測されるが問題はないか、

答

定本町長 提出された収支

計画書によると利益も出せる予定。

問

将来の運営補助を考える必要があるか、

答

定本町長 事業主体となる社会福祉協議会は、役場と共に福祉行政を担う車の両輪である。議会の協力も得ながらできる限りの支援をしたい。



旭地域に新設される老人ホーム（あさひが丘）点線内が建設予定地

質問

グラウンドの

芝生化を

環境・安全の
両面から検討する

答弁



山本宏治 議員

問

環境問題などを踏まえて、町内の小・中学校、保育園舎のグラウンドや広場を住民との共同作業で芝生化に取り組めないか。

答

定本町長

環境面から見ても良いことである。保育園では芝生よりも土に触れさせたい。遊具



芝生なら転んでも痛くないよね

答

菅尾生涯学習課長

の下など危険な所へは芝生が良いと思う。実際に向けて検討したい。菅尾生涯学習課長
芝生は広い場所では大型機械を導入してデコボコにならないような管理が必要である。

質問
救急救命士
確保に協力を

答弁
啓発に
取り組む

救急救命士の確保は地域住民の協力と同意が大切である。救命士の資格条件

には指定病院での医療行為実習(30ポイント)が必要となっている。

圏域住民の協力で医療実習ができ、一人でも多くの救急救命士の確保が望まれるが、町としても住民へのPRが必要ではないか。

答

定本町長

救急業務は平均三十七分の搬送時間であり、救急救命士の必要性は十分認識している。地域住民への啓蒙・啓発に取り組むたい。

質問
緊急雇用の維持継続は

答弁
ほかの事業を調査し対応する

問

緊急雇用対策の今後の予定は。

答

定本町長

3年間の期間限定であるが、ほかの緊急雇用事業、国の二次補正予算なども調査しながら対応する。
緊急雇用対策の今後の予定は、人材センターに六人、美咲物産に三人、みさきネット活用推進事業に二人を雇用した。業務内容は、道路整備、倒木処理、テレビ取材などである。

問

21年度の雇用人数と業務内容は。

答

難波企画財政課長

ふるさと雇用事業、緊急雇用創出事業の二事業で対応してい

質問

障害者の雇用を確保せよ

雇用の場を広げる方向性を考える

答弁



林田 実 議員

問

国の緊急雇用対策事業で、本町では障害のある人三人が雇用された。本人、家族、関係者には大きな励みとなっている。

しかし、この事業は、三年間の期限である。期間終了後も障害の

ある人への雇用は、町独自の事業としてでも継続すべきではないか。

答

定本町長

21年度、緊急雇用対策事業で美咲物産が三人を雇用している。今後は、美咲物産が管理している施設、たとえば、柵原鉱山公園での軽作業などへ雇用の場を広げていく方向で考えていく。

答

形井副町長

地域住民の生活を支え、支援していくのが行政の役目である。美咲物産社長の立場から対応できる仕事について相談していきたい。

質問

メリハリのある事業見直しを

選択と集中で改革を実行する

答弁

問

民主党政権による事業見直しは、

財政が疲弊している地方の市町村にとっては大変厳しい結果となることは歴然。将来への負担を残さないためにもメリハリをつけた事業の見直しを行うべきではないか。

答

定本町長

事業評価制度、民間活力の導入、事業の選択と集中を念頭に置きながらメリハリをつけた行政運営を進めていきたい。

質問

書副住宅家賃の値下げは

答弁

現状維持が望ましい

問

柵原地域の町有書副住宅の入居率は低い。家賃を下げてでも入居率を上げた方が得策ではないか。

答

定本町長

現在、住宅戸数六十戸に対して四十四

戸の入居があり家賃四万円で約七割の入居率となっている。家賃を値下げすると民間アパートの経営を圧迫する問題が生じるため現状維持が望ましい。



入居率の向上が望まれる 町有やなはら住宅（書副地内）

質問 各地区への
防犯灯設置は万全か
必要個所への
取り組みを図る **答弁**



梁山朝子 議員

問 通学路の防犯灯設置状況は。

答 山本教育総務課長 予算確保の関係

であり進んでいない。必要な個所への取り組みを図る。

問 青色蛍光灯は無料提供だが、白色

蛍光灯は無料にならないのか。

答 杉山総務課長 青色蛍光灯は犯罪抑止力を高める効果があるため、自治会の要望により交付している。白色蛍光灯は防犯灯維持管理費の中に含まれている。

**円滑な窓口対応に
マニュアル作りを**

問 担当者がいないと対応できないのでは不便である。トータル的なマニュアル作成や研修会で円滑な窓口対応を。その中の公務員の守秘義務は重要である。

答 定本町長 職員の意識改革と知識向上を目指した研修会への積極的な参加を促している。

**高齢者の予防接種
補助増額を**

問 高齢者に季節性インフルエンザ、

肺炎球菌予防接種の補助金を増額できないか。

答 村島健康増進課長 季節性インフルエンザワクチンが一人三千円に対して千円の補助、肺炎球菌ワクチンが一人最高八千円に対して四千円の補助。総額約千万円の予算を組んでいるが、新型インフルエンザの関係から予測していたほど予防接種が進んでいない。

質問 藤原保育園の将来構想を示せ

答弁 柵原地域の全体を考える

問 藤原保育園では0歳児保育をしていない。将来の考えは。

答 定本町長 これまで0歳児

保育は受け入れていない。今後は、柵原地域

の三保育園をどのよう
に方向付けるかを議論
していく。

問 藤原保育園には

広場型子育て支援
センターを併設してい
るが、保育室が手狭な

答 定本町長 実際現場を確認して、その不便さは理解できる。柵原地域の保育行政のあり方について意見を聞きながら考えていく。



みんな仲よし 楽しいお遊戯会 (藤原保育園)

組合議会からの報告

組合議会は、行政上の目的別にほかの市町村と共同で事務処理を行い、目的の事業を効率的に行う団体組織です

津山圏域 資源循環施設組合

(津山市、勝央・奈義・鏡野・久米南・美咲町)で21年4月に設立したゴミ処理施設

10月9日、定例会を開催し、議長・西野氏(津山市)、副議長・三船氏(美咲町)を選出した。21年度当初予算七億四千九百二十万円の予算が上程され賛成多数で承認、可決。主な歳出は、敷地造成など測量設計委託料二億二千七百七十万円、用地費四億七千三百万円など。

報告事項

津山市の組合議会議員選出が遅れたために組合議会の開催が日延べされ、約半年遅れで当初予算が成立した。

津山広域事務組合

(津山市、勝央・奈義・鏡野・久米南・美咲町)

11月13日、定例会を開催し、20年度決算認定、予備費などを追加する21年度補正予算六

百三万円が上程され全会一致で承認、可決。

津山圏域消防組合

(津山市、勝央・奈義・鏡野・久米南・美咲町)

11月13日、定例会を開催し、20年度決算認定、修繕費・消耗品費などを追加する21年度補正予算六百六十八万円が上程され全会一致で承認、可決。

津山農業共済 事務組合

(津山市、鏡野・久米南・美咲町)

11月13日、定例会を開催し、20年度決算認定が上程され全会一致で承認、可決。

津山圏域 衛生処理組合

(津山市、鏡野・美咲町)

10月22日、定例会を開催し、議長・副議長を選出した。20年度決算認定、予備費を追加する21年度補正予算約

三千六百万円が上程され全会一致で承認、可決。

柵原吉井英田火葬場 施設組合

(美作市、赤磐市、美咲町)

10月27日、定例会を開催し、20年度決算認定、火葬場修繕費などを追加する21年度補正予算二十三万円が上程され全会一致で承認、可決。

勝英衛生施設組合

(美作市、西粟倉村、勝央・奈義・美咲町)

10月20日、定例会を



汚水処理が接続される勝央町浄化センター

津山圏域 西部衛生施設組合

(津山市、鏡野・美咲町)

10月22日、定例会を開催し、議長・日神山

開催し、議長、副議長を選出した。20年度決算認定、予備費を追加する21年度補正予算九百七十六万円が上程され全会一致で承認、可決。

報告事項

◎し尿処理施設が老朽化、経費削減も考慮の上、22年度で勝央町下水道浄化センターへの接続工事を実施する予定。

柵原吉井特別養護 老人ホーム組合 (吉井川荘)

(赤磐市、美咲町)

10月27日、定例会を開催し、20年度決算認定、職員賃金七百万円、地質調査など委託料百七十二万円などを追加する21年度補正予算二千二百二十六万円が上程され賛成多数で承認、可決。

久米老人ホーム組合 (静香園)

(津山市、久米南・美咲町)

10月20日、定例会を開催し、20年度決算認定、人件費の調整による21年度補正予算千五百万円が上程され全会一致で承認、可決。

文字でつたわる 思いと想い

要約筆記サークル「ぷらす」

町内のサークルを紹介し
ます。
楽しいサークル、ユニ
クなグループご連絡くだ
さい。
議会広報委員がおじゃ
まします。

「聞こえ」に障害のある人たちへのコミュニケーション手段として文字で伝える活動を続けている美咲町聴覚障害者支援グループの要約筆記サークル「ぷらす」(代表・川島芳子さん)を訪ねました。「文字で伝えることは心も一緒に伝わります」この気持ちを大切にしたいと思いました。

きっかけは
少年との出会い

障害のある子どもを持つ親の会の交流会で、耳の聞こえない少年と出会いました。お母さんの手話を通じて会話をした後で、この少年と直接話して想いを伝えたいという気持ちが強くなり手話を学び始め、同じ気持ちを持つ仲間と手話サークル「ゆびわ」という支援グループを立ち上げました。

文字で伝える
通訳もある

そして10年を過ぎる頃、聴覚障害者の人たちとコミュニケーション

この時から要約筆記サークル「ぷらす」の活動が始まり現在8年目を迎えました。



縁の下の力持ち パソコン研修に励む皆さん

ンを取る手段は手話だけではなく、文字で伝える通訳もあるということを知り、要約筆記を学びました。

活動内容は
幅広く

主な活動は、町の講演会での内容を文字で

大きくスクリーンに映して書き・伝える情報保障や岡山市・津山市など遠方への広域派遣、さらに国体のお手伝いなど幅広く行っています。
また、パソコン要約筆記の得意な友を得て研修を行うなど、今、10人の仲間とパソコン技術を習得するために日々奮闘しています。

もっと拡がりの
ある活動に

人は誰しも年齢を重ねると耳が聞こえづらくなります。障害のある人だけではなく、高齢者への思いやりも大切にしていきたくと考えています。

文字で伝えることは心も一緒に伝わります。人と人をつないでいくこの活動を皆さんと一緒にしたいと願っています。

編集後記

新春恒例のロードレース大会、駅伝の部に今年も議会チームが参加しました。一人15キロメートルとはいえ、上り下りのあるコース。沿道の皆さんの声援のおかげで、何とか走り切ることができました。

議会も町民皆さんの、ご支援があつてこそこの活動です。

長引く経済不況。町財政も年々厳しさを増しますが、しっかりと町の将来像を描きながら、キラリと輝く魅力ある美咲町になるよう皆さんと共にがんばります。本年も一層のご愛読をよろしくお願ひ申し上げます。
(松島記)

- 議会広報編集特別委員会
委員長 松田 英二
副委員長 小島 洋征
岩野 正則
金谷 高子
草苺 良明
松島 啓